

「労災疾病等医学研究の成果をプレス発表！」

当機構が平成26年度から3年間かけて実施した研究成果を、平成29年3月22日に中京地区の報道機関及び厚生労働省記者クラブ等に発表しました。

この研究成果は既に日本高血圧学会誌の「Hypertension Research」にも掲載されています。

旭労災病院の木村玄次郎院長が中心となり、労災病院のスケールメリットを活かして症例収集を進め、勤労者の月曜日の午前にダブル・プロダクト【W-P：収縮期血圧×脈拍数】が上昇することを明らかにしました。

この結果は、月曜日の仕事量の抑制が勤労者の心疾患事故を予防する上で重要であることを示唆するものです。

以下がプレス発表の内容です。

月曜日午前に要注意！

～ 職場高血圧に関する調査研究結果の概要 ～

働く人たちが、月曜日の午前に心血管事故の発症が多いことは知られていますが、これまでその原因などについては不明でした。

平成26年度から、旭労災病院（研究代表者：病院長 木村玄次郎）を中心に全国29の労災病院において、「職場高血圧に関する調査研究」に取り組んできました。

今般、勤労者の月曜日の午前（工作中）にダブル・プロダクト【W-P：収縮期血圧×脈拍数（心血管事故に直結する新しいリスク）】が上昇することを明らかにしました。

プレミアム・フライデーがスタートしましたが、月曜日の仕事量抑制が勤労者の心血管事故を予防し、QOLを改善する上での重要性が示唆されたものです。

研究の概要と成果等については別紙をご覧ください。

- ※ 独立行政法人労働者健康安全機構は、産業活動に伴い、依然として多くの労働災害が発症している疾病、又は産業構造・職業環境等の変化に伴い、勤労者の新たな健康問題として社会問題化している疾病について、研究・開発・普及に取り組んでいます。

研究内容に関する問い合わせ

〒488-8585

愛知県尾張旭市平子町北61番地

旭労災病院総務課 電話 0561-54-3131（代表）

「職場高血圧に関する調査研究」の概要と成果

(労働者健康安全機構 29 労災病院共同研究の成果: Hypertension Research, in press)

サマリー

勤労者では月曜日の午前（工作中）にダブル・プロダクト【W-P：収縮期血圧×脈拍数（心血管事故に直結する新しいリスク）】が上昇することを明らかにした。

研究目的

心筋梗塞や脳卒中などの心血管事故は、月曜日の午前に高率に発症する事実は古くから知られていたが、その原因は不明であった。しかも、この現象は65歳未満の勤労者に限定され、高齢者や入院患者には当てはまらない。そこで、最大の古典的心血管リスクである血圧に注目し、その週間および日内リズムを検討した。

方法

65歳未満で、週日のみ勤務し、夜勤をしない典型的な勤労者（207名（男性：114名、女性：93名、平均年齢51歳）を対象に休日（土または日曜）および平日2日間（月曜と金曜）の計3日間で、起床時、午前10時、午後4時、入眠前の4機会に血圧と心拍（脈拍）数を測定した。

結果

血圧に関しては、週間と日内リズムの間に有意な交互作用を認めなかったものの、月曜午前のW-P（収縮血圧と心拍数の積）は特異的に、全体（ $p=0.017$ ）でも女性（ $p=0.006$ ）でも有意に上昇することを初めて明らかにした。

成果と考察

なぜ月曜の午前に集中して心血管事故を起こすのか、これまで不明であった。今回の研究結果はW-P（心臓の仕事量や酸素消費量に相当）の増加が心血管事故に関与することを示唆する。月曜午前は、休み明けからダッシュして1週間のスケジュールを進めて行かねばならないストレスが、W-Pを上昇させるものと考えられる。この結果は、もしかすると、プレミアム・フライデー以上に、月曜日の仕事量抑制を行うことで勤労者の心血管事故を予防し、QOLを改善する上で重要であるかもしれない。